

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2024年度 第1号

事務局: 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: [kelesoffice@gmail.com](mailto:kelesoffice@gmail.com) 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2024年7月26日発行



### 巻頭言

## 進化する学会—さらに楽しい学会にしたい

関西英語教育学会会長 横川 博一 (神戸大学)

6月8日・9日の二日にわたって開催された今年の研究大会も成功裡に終えることができました。多くの皆様にご発表・ご参加をいただき、感謝しております。

年に一度開催するこの研究大会も今年で30回を数えました。ですから、関西英語教育学会も設立30年ということになります。30年前、私は大学院生でした。その少し前から、関西英語教育学会の前身である日本英語教育学会関西支部の研究大会などに参加していました。秋から冬にかけて3回にわたって連続シンポジウムという、今のKELESセミナーにあたるようなものが当時もありました。テーマも内容もとても興味深いものでしたが、ほとんど参加者がいないような回もあり、院生ながら、とても残念に感じていました。

そうこうしているうちに、関西支部は日本英語教育学会から独立し、新たに関西英語教育学会が誕生することとなりました。初代会長には、当時京都教育大学教授であった齋藤榮二先生、副会長には京都府立大学教授の瀬川俊一先生、事務局長には京都教育大学助教授の三浦一朗先生が就任され、学会は新たなスタートを切りました。それまでの伝統はしっかり受け継ぎつつ、新しい伝統を築いていくという気概に溢れ、活気に満ち溢れていたように、少なくとも私は感じていました。研究大会やセミナーにはたくさんの発表応募があり、大勢の参加者がありました。学会がふたたび息を吹き返したかのようでした。もっと平たく言えば、学会が元気になったんです。そこに集まった人の熱意が学会を元気にし、そして集まった人をも元気にしてくれたんです。

ところがそんな矢先に、三浦先生が急逝され、私たちは深い悲しみに包まれました。突然のことであり、学会のこうした流れを止めないためにも、齋藤先生は私に事務局長をやってくれないかとおっしゃられたのです。名簿の管理から年会費の納入チェック、研究大会やセミナーの講師の講師依頼からプログラムの作成、当日の運営の采配まで、私は必死にやりました。齋藤先生、瀬川先生、事務局メンバーが京都教育大学に集まって、事務局会議をやり、その後、ニューズレターを印刷し、それを三つ折りにしてから封筒詰めして郵便局に運ぶという作業を何度繰り返したことか。そして夜は食事にカラオケまで(笑)。くたくたになるんですが、ワイワイガヤガヤ、とても楽しくやったものです。

同じ事務局の加納隆広さんと、関東圏でやっているような卒論や修論を発表し、若手が切磋琢磨しあうような場を作りたいと、「卒論・修論研究発表セミナー」を立ち上げたのも、設立後まもなくです。齋藤会長は快諾してくださり、これが成功するように各方面に呼び掛けてくださいました。その後、会員にとってもっと気楽でフレンドリーな情報誌『KELES ジャーナル』の刊行も実現しました。

あれから30年。私のような者が会長に選出されるなんて、なんという運命の悪戯か。しかし、私はこの試練を楽しみたいと思います。このたび役員も交代があり、経験豊富な先生方に加え、新進気鋭の若いみなさんも大勢お迎えしました。役員の方々と、そして会員の皆様とともに、関西英語教育学会の新しい(そして楽しい)伝統を創っていきたくて、気を引き締め、意欲を新たにしているところです。

## 報告 関西英語教育学会 第30回研究大会

開催日：2024年6月8日（土）・9日（日） 会場：龍谷大学 大宮キャンパス

6月8日（土）、9日（日）に、第30回研究大会が開催されました。今年は、池田勝久先生、江利川春雄先生によるご講演をはじめとして、3件の企画ワークショップや16件の研究発表・事例報告、公募ワークショップと公募フォーラムが1件ずつあり、盛会のうちに終了しました。約130名の方々にお申込み、ご参加いただき活発な議論が展開されました。講師をお引き受けくださった先生方をはじめ、ご発表くださった皆様、参加してくださった皆様、会場を提供して下さり事前のご準備等にご尽力くださった皆様に心から感謝申し上げます。

### <8日（土）講演>

#### 「令和の日本型学校教育における自律的な学習者の育成—音と意味を大切にした外国語教育—」

講師：池田 勝久先生（文部科学省）

講師の池田先生のご経歴が非常に興味深い。中学校英語教師として16年間、その後、小学校英語に関心を持ち小学校でも教壇に立たれた。計約30年の公立学校教員のキャリアを経て、英語だけでフィンランド教育を行うスオミ小学校の副校長職に就任。大学でも非常勤講師を勤め、小中高大の現場を経験された。平成29年より文部科学省初等中等教育局教科書調査官を務め、令和5年より外国語主任教科書調査官として活躍されている。

今回は、教育現場と行政での豊富なご経験に基づき、文部科学省の施策を俯瞰的な立場で話された。

まず、「1. 百年に一度の教育改革」とその背景を説かれた。今回の教育改革は、文字通り、後日振り返れば歴史の転換点となる改革だという。その社会的背景としては、①「人口減少・少子高齢化」で生産年齢人口が約5割となり、労働生産性を上げる必要がある中で学校の役割が問われており、②「グローバル化」と③「多様性&包摂の重視の時代」に、SDGsの目標4の「質の高い教育をみんなに」をどう叶えるのかが課題である。④「デジタル化（Society5.0）」が進み、1人1台端末の導入は小・中学校でほぼ100%完了し、活用率は上昇しているものの、クラウド利用や教員の意識面などの地域

間・学校間格差は大きい。⑤「変化の激しい不確実性の時代」かつ⑥「人生100年時代」には、働く期間が長くなり、一生のうちにマルチステージを経験することになるとして、社会的課題をまとめられた（鉤括弧と丸数字は講師の池田先生のご発表より引用）。

こうした課題を踏まえて、「2. 令和の日本型学校教育と教師像」について説かれた。少ない人口で維持していくこれからの日本社会では生産性の高い人材を育成する必要がある、「個別最適な学びと、教働的な学びの実現」が目指される。その際、学習者主体で自律的であることが鍵となる。DX（デジタルトランスフォーメーション）は学習者の選択肢を広げることができるため、自分に合った学び方を選べる点が良い。令和6年にGIGAスクール構想の第二ステージ（5年間）が始まったが、端末の日常使いを前提とし、端末を使って授業外に自分で学び、AIを活用する段階にある。ゴールは、教科書が教師が教えるための教材ではなく、自律した学習のための学習材となることである。英語という科目では、英語を教える学習指導から授業デザインを行うよう教員の意識と実践を変えていく必要がある、ICTの活用が望まれると話された。

次に、「3. 実践事例」として、個別最適化・自己調整・主体的な学びとDXを柱とする沖縄の小学校の取組みを紹介された。ここで、日本の学校のICTリソースの利用のしやすさは世界5位だが、子どもたちのデジタルソースの利用は世界29位、自律学習と自己効力感は世界34位であると知らされ、教師が与え続ける授業スタイルは児童生徒の自主性を奪っているのではないかの考えを示された。ここで必要となるのは教員の「マインド・セット」だとし、文科省の「これからの授業！どうするの！？」というYouTubeチャンネルの紹介があった。

最後に、「4. 音と意味を大切にした外国語教育」について話された。学習指導要領改訂後に公開されている「検定意見書」の具体的な例を示され、特に、検定対象は紙面であるため、音声面の検定がさ

れていないことを指摘された。中高生対象の英語教科書の本文・会話文は検定を経て正しい音声のインプットに繋がっているが、検定を受けていない音声教材を用いて学ぶ現状から、外国語は特に音声の検定をすべきではないかという考えを述べられた。また、会場の研究者に向けて、プロソディを大切にしたい指導効果の研究を奨励された。

講演半ばと最後に質疑応答の時間もあり、会場から教育現場の声が届けられた。また、環境を整えれば自律した学習者が育つのかという質問に対しては、インターネット環境の整備と教師のマインド・セットが重要だと答えられた。教育現場で長く過ごされた池田先生から、児童生徒に真摯に向き合う現役教員への応援メッセージと受けとめた。

報告者：照井 雅子（近畿大学）

#### ＜8日（土）企画ワークショップ＞

#### 「論理表現の授業、ディベート指導の前に一工夫を」

講師：戸田 行彦先生（京都外国語大学）

本ワークショップでは、英語ディベートの実践についてわかりやすく解説していただいた。冒頭に、ディベートの目的や身につけるべき力についてペアで話し合う機会があった。講師の戸田先生は、英語ディベートは、「論破する」「打ち負かす」ことが目標ではなく、方法や手段であり、特に、「聞く力」が大事であると強調された。

次に、ピンポンディベートの実践を行った。参加者たちは会場内でペアを組み、用意されたトピックから一つ質問を選んでディベートを行なった。私たちのペアは「英語は英語で教えるべきか」という質問を選び、それぞれが1分ずつ肯定側と否定側の立論を述べた。続けて、自分の立論を守りながら、相手の立論に反論し、ピンポンのように1分ずつ意見を交わした。流れが一通り終わると、肯定側と否定側を入れ替えて同じように行った。実際にやってみると、即興で反論する難しさを感じつつも、ディベートの楽しさを体感できた。

次に、ジャッジの立場を体験するために、2つの意見（ランチは牛丼かうどんか）のどちらを支持するか考える活動を行なった。会話を何回かのラウンドに分け、ラウンドごとに、うどんか牛丼かどちらを支持するか挙手をした。意見を述べるだけの場合や、2人が同じ理由を挙げた場合も説得力がなく、ジャッジの判断が難しかった。最後のラウンドでは、相手の意見を踏まえ比較の観点を示すと納得しや

すくなった。身近なトピックを使い、ジャッジの立場から反論の仕方を学ぶ良い例となった。

さらに、「デートに行くならどこに行くか（琵琶湖・公園・遊園地・映画館・家）」「TDLかUSJかどちらに行くか」など、学習者が興味を示すようなトピックを取り上げてワークショップを進められた。ワークショップは、ペアやグループでの活動が多く含まれ、また、日本語でのやり取りも可能だったため、具体的なイメージを得ることができた。

最後に、ディベートにおいて学習者がミスをしやすい事例も紹介された。学習者は、意見を説明する際、具体例をいきなり示して飛躍することがある。理由やサポートとなる根拠をステップごとに考えることで、骨太の論理展開力を身につけることを強調された。

ワークショップ全体を通して、テンポよく進み、先生のユーモアやお人柄が現れた非常に雰囲気の良いセッションだった。中学校・高校での16年の英語指導歴を持ち、現在も教員研修に携わっていらっしゃる先生だからこそ、実践的な取り組みが非常にわかりやすかった。

報告者：小川 知恵（京都産業大学）

#### 「シャドーイングの基礎知識と使い方」

講師：濱田 陽先生（秋田大学）

濱田先生のワークショップでは、初めにシャドーイングの定義、理論、効果などの基礎知識が導入された。その後、シャドーイングの具体的な実践方法や評価方法が続いた。

基礎知識については、シャドーイングの定義が示された後、リスニング能力向上や発音改善にシャドーイングがなぜ効果的であるかについて、ボトムアップ処理および Skill acquisition theory という2つの観点から説明がされた。Skill acquisition theory はこれまでにない着眼点であり、シャドーイング研究を今後さらに発展させる可能性が感じられた。

次に、過去の研究が紹介された。リスニング能力向上におけるシャドーイングについては、初心者において特に効果があることや、アクセントのある英語の聞き取りにも効果的であるということを示す研究が紹介された。「上級者であっても音声変化が多く速い音声は聞き取れないことがあるが、そういった場合には熟達度に関係なくシャドーイングは効果がある可能性がないだろうか」という疑問が浮

かぶなど、私にとって今後の研究のタネが生まれる生産的なセッションであった。また、発音の改善に関しても、シャドーイングが英語の聞き取りやすさやアクセントの軽減に効果があることを示した研究が紹介された。

基礎知識の最後には、様々な種類のシャドーイングが紹介された。その中でも、英語音声を強く発音するタイミングで拳を前後させるヘプティックシャドーイングの実践では、特に会場が盛り上がりを見せていた。

実践に関して、授業における具体的なシャドーイングの手順が紹介された。リスニング、マンブリング、スクリプトシャドーイング、意味確認、シャドーイング、コンテンツシャドーイング、レコーディング、リスニング、という具合の流れであった。発音改善を目的としたシャドーイングでは、発音記号を用いたシャドーイングやレコーディングなどの実施手順が詳細に紹介された。その後、3つのシャドーイング評価方法が紹介された。5語ごとにシャドーイングできているかを確認するチェックポイント法、すべての単語が再生できているかを評価する再生率評価、指定の単語のみの発音を確認する対象評価法である。私自身も授業でシャドーイングを実践しているため、これらの内容は即時に取り入れられる実践的なものであると感じた。

全体として様々な工夫を行って聴衆を巻き込む内容となっており、シャドーイングとはどのような学習方法か、どのような効果があるか、また、なぜ効果があるのかという、理論的な側面についても知識を深められる内容であった。さらに、現場においても即時に応用できる実践的なコンテンツも含まれており、非常に有意義なものであった。

報告者：橋崎 諒太郎（大阪経済法科大学）

＜9日（日）企画ワークショップ＞

「CEFR-JのCan-do 記述文を活用した  
パフォーマンス評価」

講師：工藤 洋路先生（玉川大学）

CAN-DO リストやパフォーマンス評価の活用、言語活動や評価の具体例について、実例や活動を交えて発表された。工藤先生は、CAN-DO リストについて「Can-do Statement や Can-do Descriptors と呼ばれる、英語でできることを記したものをリスト化したものである」と説明された。文部科学省が中学校・高等学校の到達目標を CAN-DO リストの

形で設定・公表することを提言した経緯も述べられた。一方で、評価の基準や実際の指導との整合性に関する課題についても触れられた。

CAN-DO リストの特徴として、実際のコミュニケーションの場面を想定し、「何ができるのか」を記述していることを挙げられた。CEFR についても言及され、日本人学習者向けにレベルを細分化した CEFR-J が開発された経緯について紹介された。次に、CEFR-J の CAN-DO Descriptors を用いて、記述文をレベル別に並び替える活動が行われた。この活動を通して、CAN-DO リストを授業活動に活用する際の留意点などを議論できた。実際に運用する際には、評価基準の一貫性や整合性、教師間の価値観や情報共有が重要であると述べられた。

CEFR-J の CAN-DO ディスクリプタに含める要素として、発信型スキルは Performance, Quality, Condition、受信型スキルは Task, Text, Condition の3つの要素を紹介された。次に、CEFR-J を活用した言語活動の作成例を示し、コミュニケーション能力の育成につなげる手立てを説明された。リスニングでは、天気予報を聞き、聞き取った情報を基にしたタスクを設定することを提案された。ライティングにおいても、目的・場面・状況を工夫したタスクを通じて、生徒の表現力を評価する方法を紹介された。このように、どのようなタスクやテストを作成できるか、それらを評価するためにどのようなパフォーマンス評価を設定できるのか議論した。

CAN-DO リストに基づいた授業活動や評価問題を作成する際は、実際のコミュニケーション場面を想定し、その場面で「何ができるか」を意識することが重要だと感じた。生徒の取り組みを評価する際には、CAN-DO リストの記述文に沿って、コミュニケーション上の目的を達成できているかを基準とすることを学んだ。CAN-DO リストを活用する際は、単に「できる・できない」を確認するだけでなく、コミュニケーション能力の育成を意識した指導や評価を行うことが重要だと感じた。今回拝聴した発表は、勤務校のパフォーマンス評価の在り方を再考する貴重な機会となった。これらの評価方法を活用し、より効果的な CAN-DO リストやパフォーマンス評価の実践と改善につなげたい。

報告者：杉浦 悠真（滋賀県立河瀬中学校・  
高等学校）

## <9日(日)講演>

### 「グローバル人材育成策を問い直し、 協同と共生の英語教育へ」

講師：江利川 春雄先生(和歌山大学名誉教授)

「グローバル人材育成という言葉については、賛同しない」ということから始まり、話の話題が次々と進み流れるようなお話が始まった。講演の流れは、以下のとおりである。

- 1 英語教育の現状、これでよいの？
- 2 生活英語か学習英語か？
- 3 心通わす協同学習を。
- 4 AI時代の英語教育をどうするか。

最初の話題は、光文社新書の『英語ヒエラルキー—グローバル人材教育を受けた学生はなぜ不安なのか—』という本の紹介、そして、文科省の学習状況調査報告の結果から、「英語がわからない・嫌いが増加している」ことがわかるとの報告もあった。前述の小・中の結果を穴埋め形式で聴衆と一緒に考え、埼玉県英検取得者の割合が全国一なのは、英検受検を県が補助しているからである。全国的には英検取得相当のみなしが増えているが、怪しい点も多いとの指摘もあった。

最近のAIでの調査では、中学校英語教諭の感情が恐れ、悲しみ、怒りが多いという分析があり、「ある中学英語教師の意見」では、1年生の教科書が小学校で習ったことを前提に語彙も表現も難しすぎて、教えるのが困難。限られた時間の中で、ゆっくりじっくりと繰り返し定着するまで練習させてやる時間がとれず、英語への苦手意識や英語嫌いがどんどん増えている気がするということである。

次から次へと出てくる新出単語(小学校ですでに習っているとして書かれているものも含めて)を読めない、覚えられない生徒たちをどう指導すればいいのか。家庭の経済力による格差と大阪府のチャレンジテストの結果の二瘤ラクダができていこととは関係があると。政府の政策的な格差拡大で、新自由主義が競争させて生き残ったものが生きるといこと。国立大学法人化で大学での経済格差も大きくなっている。

そんな中で、「3.5%の人々が、非暴力的に、本気で立ち上がると、社会が大きく変わる。(ハーバード大学テクノウェス(政治学)らの研究)」

このような動きをする必要があるかもしれないと齋藤兆史・鳥飼玖美子・大津由紀雄先生らと4人組

を作って、運動を盛り上げていった。この動きが土壇場での文科大臣の英語民間試験の見送りに繋がった。

早稲田の国際教養学部を卒業した優秀な学生が就職後に日本語がおかしいということで苦労している話から、コミュニケーション重視だけではいけないのではないかという疑問も投げかけている。

そこで、コミュニケーション重視後の英語力の変化を高校入学時の英語学力の経年変化という調査の中で、ほぼ14年連続低下=偏差値換算で約7.4下落ということは、とても驚いた。やはり、文法等の基本もしっかりと押さえる必要があるのではないか。そこで、協同学習の重要性がある。

「仲間と繋がる協同学習(Collaborative Learning)。少人数集団で自分と仲間の学びを最大限に高め合い、全員の学力と人間関係力を育て合う教育の原理と方法(江利川春雄編著『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』2012)

協同学習は、問題行動減少、自尊感情向上、学力向上に繋がる。ネズミの例から、人間の脳の同期反応、脳活動の同期から協同的なアクティブラーニング(AL)が多いほど、英語が「好き」に、格差も是正。大阪府のデータから、問題行動が減る、不登校が減る。教師の超過勤務が減る。学力についても、コロナ渦の中から仲間とのつながり、効果がある。

協同学習の実践法・留意点

- ① チーム化で協同する土壌形成
- ② 目標・流れの明示主体的学習
- ③ 協力し、高い目標に挑戦
- ④ 共有課題+ジャンプ課

のべ数千の教室を拝見して、全員の学びを保障し、一人も見捨てないために、一斉講義型授業を脱却すべきである。最後に述べられたことは、

- ・エリート育成・格差→平等・協同へ
- ・教育政策の政財界からの独立、専門・実践知を
- ・学習言語・EFLとしての英語教育を
- ・協同学習：人間性+学力+格差是正
- ・AI時代に対応した英語教育を
- ・教育研究条件の改善、批判と行動を

あつという間の90分だった。テンポ良く素晴らし内容で、とても深く考えさせる講演だった。

報告者：高木 浩志(奈良教育大学)

# 報告 2024 年度 関西英語教育学会 会員総会

開催日：2024 年 6 月 8 日（土） 会場：龍谷大学 大宮キャンパス

2024 年度会員総会では、宮崎貴弘先生（神戸市葺合高等学校）による司会進行のもと、議長に橋本健一先生（大阪教育大学）が選出され、2023 年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2024 年度活動計画および予算案などについて報告・提案がなされ、承認されました。また、泉恵美子会長（関西学院大学）の任期満了に伴い、会長選出が行われ、新会長には横川博一氏（神戸大学）が選出されました。

## 1. 2023 年度活動報告

### ◆関西英語教育学会 2023 年度（第 29 回）研究大会

日程：2023 年 6 月 10 日（土）・11 日（日）

会場：大阪教育大学 天王寺キャンパス

内容：講演 2 件、研究発表・事例報告 13 件、企画ワークショップ 4 件

### ◆全国英語教育学会第 48 回香川研究大会

期日：2023 年 8 月 19 日（土）・20 日（日）

会場：香川大学教育学部

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：四国英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：課題研究フォーラム（1 年目）

タイトル：「指導と評価の一体化」の実践課題：

小・中・高での事例研究

コーディネーター：今井 裕之（関西大学）

提案者：羽瀧 弘毅（西宮市立甲陽園小学校）

狩野 伸行（堺市立上野芝中学校）

有嶋 宏一（鹿児島県総合教育センター）

### ◆ セミナー・共催行事

#### ◇第 57 回 KELES セミナー

日程：2023 年 10 月 1 日（日）

会場：龍谷大学 梅田キャンパス

テーマ：AI を活用した効果的な英語の教授と学習

「生成系 AI を活用した英語教育実践の可能性と課題」水本 篤先生（関西大学）

「AI 活用の決定要因としての教育観と学習観—

英語学習者が「語彙学習では間違えることが必要」と自覚するまで—」柳瀬 陽介先生（京都大学）

#### ◇第 58 回 KELES セミナー

日程：2023 年 11 月 12 日（日）オンライン開催

テーマ：今こそ充実したリーディング指導を！

「英文読解の認知メカニズム：テキストからの学習とその指導に向けて」細田 雅也先生（成城大学）

「リーディング力や速読力向上の具体的なトレーニング方法」中野 達也先生（駒沢女子大学）

#### ◇第 59 回 KELES セミナー

日程：2023 年 12 月 17 日（日）

会場：龍谷大学 梅田キャンパス

テーマ：効果的な英語音声・スピーキング指導法

「スピーキング力向上のための即興型英語ディベート」中川 智皓先生（大阪公立大学）

「音声指導の心・技・体—音連続とリズム可視化のための英文マークアップの試み—」静 哲人先生（大東文化大学）

#### ◇第 27 回卒論・修論研究発表セミナー

日程：2024 年 2 月 12 日（月・祝）

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

スペシャル・トーク：「生きる力を育てる英語の授業」望月 正道先生（麗澤大学）

発表 9 件／参加者 45 名

### ◆ 授業研究プロジェクト

◇テーマ：「「指導と評価の一体化」の実践課題：小・中・高での事例研究」

研究期間：2022～2024 年度（3 か年）

代表者：今井 裕之（関西大学）

メンバー：羽瀧 弘毅（西宮市立甲陽園小学校）

狩野 伸行（堺市立上野芝中学校）

有嶋 宏一（鹿児島県総合教育センター）

### ◆ 広報・刊行物

◇ニューズレター 年 4 回発行（7 月、12 月、1 月、3 月：Web 掲載開始）

◇紀要『英語教育研究』第 47 号刊行（紀要編集委員会）

◇学会会員情報誌『KELES ジャーナル』第 9 号刊行

2. 2023 年度決算報告

**関西英語教育学会2023年度決算報告書（案）**

収入の部			
項目	予算額 (円)	決算額 (円)	備考
前年度繰越金	3,709,640	3,709,640	
年会費	2,600,000	2,326,000	全国英語教育学会年会費も含む
参加費	80,000	101,590	関西英語教育学会第28回研究大会、KELESセミナー(第54/55/56回)、第26回卒論修論研究発表セミナー
論文集	50,000	30,000	学会紀要SELT販売、論文掲載費、論文抜刷費用
その他	150,000	150,994	全国英語教育学会からの事務局補助費、2020年度課題研究費経費残金
計	6,589,640	6,318,224	

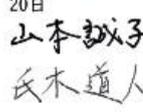
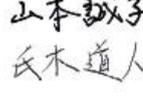
支出の部			
項目	予算額 (円)	決算額 (円)	備考
通信費	550,000	457,149	各種郵送代(学会紀要、ニューズレター、切手代、その他)、HPサーバー管理費、振込手数料
研究費	1,000,000	940,859	講師謝礼、作業補助謝礼、ZOOM契約料、KELESジャーナル執筆料、その他
印刷費	1,100,000	1,371,268	紀要『英語教育研究』、KELESジャーナル、第26回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、学会封筒印刷、J-Stage登録代行
会議費	20,000	0	
交通費	80,000	180,000	セミナー講師交通費、幹事交通費
事務費	20,000	2,890	宛名シール、コピー用紙、ホームページ修正
全国年会費	560,000	574,000	2,000円×287名
予備費	30,000	0	
計	3,360,000	3,526,166	

収入総額	6,589,640	6,318,224	
支出総額	3,360,000	3,526,166	
差引残高(次年度繰越金)	3,229,640	2,792,058	

2024年 5月 20日  
 関西英語教育学会 (KELES) 会計担当幹事  
 齊藤 倫子  
 濱田 真由

諸帳簿照合の結果、正確かつ公正に執行され、上記に相違ないことを報告します  
 2024年 5月 20日  
 会計監査

3. 2024 年度活動計画

◆関西英語教育学会 2024 年度 (第 30 回) 研究大会

日程：2024年6月8日(土)・9日(日)  
 場所：龍谷大学・大宮キャンパス  
 内容：講演2件、企画ワークショップ3件、研究発表・事例報告15件、公募ワークショップ1件、公募フォーラム1件

◆全国英語教育学会第49回福岡研究大会

<https://www.jasele49fukuoka.org/>  
 期日：2024年8月24日(土)・25日(日)  
 会場：福岡工業大学 <https://www.fit.ac.jp/>  
 〒811-0295 福岡県福岡市東区和白東 3-30-1  
 主催：全国英語教育学会(地区学会：北海道英語

教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会)

担当地区学会：九州英語教育学会  
 関西英語教育学会担当プログラム：授業研究フォーラム(2年目)  
 テーマ：「指導と評価の一体化」の実践課題：小・中・高での事例研究  
 コーディネーター：今井 裕之(関西大学)  
 提案者：羽瀧 弘毅(西宮市立甲陽園小学校)  
 狩野 伸行(堺市立上野芝中学校)  
 有嶋 宏一(鹿児島県総合教育センター)

◆ セミナー・共催行事

◇第60回 KELES セミナー

日程：2024年9月または10月開催予定、会場未定

◇第61回 KELES セミナー

日程：2024年11月開催予定、会場未定

◇第62回 KELES セミナー

日程：2024年12月開催予定、会場未定

◇第28回卒論・修論研究発表セミナー

日時：2025年2月開催予定、会場未定

◆ 課題研究プロジェクト

◇「生身からのことばで語る—AI時代の英語教師の成長—」

プロジェクト・リーダー：山本 玲子（京都外国語大学）

研究期間：2024～2026年度（3か年）

◆ 授業研究プロジェクト

2025年度以降に新規プロジェクト1件程度採択予定

◆ 広報・刊行物

◇ニューズレター 年4回発行（7月、12月、1月、3月の予定）

◇学会紀要『英語教育研究』第48号を刊行予定（紀要編集委員会）

◇学会会員情報誌『KELES ジャーナル』 第10号を刊行予定

4. 2024年度予算案

関西英語教育学会 2024年度予算案				
収入の部				
項目		2023年度決算額（円）	2024年度予算額（円）	備考
1	前年度繰越金	3,709,640	2,792,058	
2	年会費	2,326,000	2,326,000	全国英語教育学会年会費も含む
3	参加費	101,590	100,000	関西英語教育学会第30回研究大会、KELESセミナー（第60～62回）、第28回卒論修論研究発表セミナー
4	論文集	30,000	30,000	学会起用SELT販売、論文掲載費
5	その他	150,994	150,000	全国英語教育学会からの事務局補助費、2023年度課題研究費残金
計		6,318,224	5,398,058	
支出の部				
項目		2023年度決算額（円）	2024年度予算額（円）	備考
1	通信費	457,149	550,000	各種郵送代（学会紀要、ニューズレター、切手代、その他）HPサーバー管理・修正費、振込手数料
2	研究費	940,859	850,000	講師謝礼、作業補助謝礼、会場費用（Zoom契約料含む）、KELESジャーナル執筆料、大阪高英研高校掲載料、プロジェクト経費、その他
3	印刷費	1,371,268	1,400,000	紀要『英語教育研究』、KELESジャーナル、第26回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、ニューズレター、お知らせ、学会封筒印刷、J-Stage登録代行
4	会議費	0	20,000	会議所経費（幹事会・理事会）
5	交通費	180,000	100,000	研究大会・セミナー講師交通費/宿泊費、幹事交通費
6	事務費	2,890	20,000	宛名シール、コピー用紙、ホームページ修正
7	全国年会費	574,000	580,000	2,000円×287名
8	予備費	0	30,000	
9	名簿管理業務委託費	0	532,000	
10	次年度繰越金	2,792,058	1,316,058	
計		6,318,224	5,398,058	

【お詫びと訂正】理事の氏名に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
(誤) 長谷 尚哉 (正) 長谷 尚弥

## 5. 2024 年度役員一覧

### 会 長

横川 博一 (神戸大学)

### 副会長

今井 裕之 (関西大学)

### 顧 問

沖原 勝昭 (神戸大学名誉教授・京都ノートルダム  
女子大学名誉教授)

織田 稔 (元関西大学)

瀬川 俊一 (京都府立大学名誉教授)

村田 純一 (神戸市外国語大学名誉教授)

吉田 信介 (関西大学名誉教授)

### 幹事長 (副会長兼務)

平野 亜也子 (京都産業大学)

### 紀要編集委員長

佐藤 臨太郎 (奈良教育大学)

### 幹 事 (13名)

小川 知恵 (京都産業大学)

坂本 南美 (同志社大学)

篠崎 文哉 (大阪教育大学)

下村 冬彦 (立命館大学)

杉浦 悠真 (滋賀県立河瀬中学校・高等学校)

谷野 圭亮 (大阪公立大学工業高等専門学校)

鳴海 智之 (兵庫教育大学)

新本 庄悟 (滋賀大学)

服部 拓哉 (立命館大学)

濱田 真由 (神戸大学)

南 侑樹 (神戸市立工業高等専門学校)

宮崎 貴弘 (神戸市立葺合高等学校)

山形 悟史 (岡山大学)

### 理 事 (13名)

赤松 信彦 (同志社大学)

泉 恵美子 (関西学院大学)

加賀田 哲也 (大阪教育大学)

齊藤 倫子 (関西学院大学等非常勤講師)

佐々木 顕彦 (武庫川女子大学)

名部井 敏代 (関西大学)

長谷 尚弥 (関西学院大学)

平井 愛 (神戸学院大学)

増見 敦 (神戸大学附属中等教育学校)

水本 篤 (関西大学)

溝畑 保之 (桃山学院教育大学非常勤講師)

柳瀬 陽介 (京都大学)

吉田 達弘 (兵庫教育大学)

### 紀要編集委員 (6名)

黒川 愛子 (帝塚山大学)

今野 勝幸 (龍谷大学)

中西 のりこ (神戸学院大学)

橋本 健一 (大阪教育大学)

牧野 眞貴 (近畿大学)

三上 明洋 (関西学院大学)

### 会計監査 (2名)

杉浦 香織 (立命館大学)

染谷 藤重 (京都教育大学)

※ 同職位内では50音順。下線は新任の役員を示す。

## 6. その他の審議事項

- (1) 会員名簿管理の業務委託について検討を開始することが原案通り承認された。
- (2) 印刷費等の高騰に伴う支出額の増加とその対応策について検討を開始することが原案通り承認された。

## 退任のご挨拶

### 会長退任

泉恵美子先生 (関西学院大学)

2020年度より2期4年会長を務めさせていただきました。コロナ禍での学会、オンラインやハイブリッドなど多くの課題もございましたが、副会長、

幹事長、幹事・理事をはじめ、会員の皆様の温かいご支援とご協力により、学会活動を推進・実行できましたことを、深く感謝申し上げます。任期中、研究大会やセミナーの開催、プロジェクトの実施、研究紀要やジャーナル、NLの発行など、多岐にわた

る活動を通して、皆様と楽しく活動をさせていただきながら、英語教育の重要性を改めて実感いたしました。

KELES が英語教育に真摯に取り組まれている人々に寄り添い、皆で英語教育の理念や未来、日頃の授業や学習者について考え、語り合う、成長と交流の場として、これからも発展することを願ってやみません。おわりに、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。本当に有難うございました。

### 幹事を退任される先生方

#### 浅羽 真由美先生（京都産業大学）

幹事に着任し、あっという間に過ぎた2年間でした。学会の裏方の仕事をさせていただいたのは初めての経験であり、先生方にはご迷惑を掛けてばかりでした。暖かい目で見守って助けてくださった皆様方に感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。

#### 齊藤 倫子先生（関西学院大学）

4年間幹事として務めさせて頂く中で、共に活動を支える先生方の献身的な姿を目の当たりにし、とても多くのことを学ばせて頂きました。心より感謝申し上げます。今後も一会員として、新幹事の先生方のご活躍を陰ながら応援させていただきます。

#### 染谷 藤重先生（京都教育大学）

この度、2年間にわたり幹事を務めさせていただき、誠にありがとうございました。主な活動として、KELES Journal の編集作業など、多岐にわたる貴重な経験を積ませていただきました。心より感謝申し上げます

#### 俣野 知里先生（京都市立二条城北小学校）

在任中、多くの皆さまとのご縁に恵まれ、貴重な経験と学びを得ることができましたことを心より感謝しております。4年間大変お世話になり、誠にありがとうございました。学会の一層のご繁栄をお祈り申し上げます。

## 学会事務局からのお知らせ

### ◆学会誌『英語教育研究』（SELT）

#### 第48号 投稿論文募集

関西英語教育学会では、学会誌『英語教育研究』（SELT）第48号（2025年3月刊行予定）への論文投稿を募集します。会員の皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

詳細は別紙をご覧ください。

投稿受付締切 2024年8月31日（土）22:00

### ◆各種お問い合わせ先

年会費、学会誌、セミナー、入退会などに関するお問い合わせは、学会ウェブサイトの「お問い合わせフォーム」をご利用ください。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfTFG1bUpHC84nkkd2zTywniFfvUD1ve\\_AfA557qcNUH\\_YLHdg/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfTFG1bUpHC84nkkd2zTywniFfvUD1ve_AfA557qcNUH_YLHdg/viewform)

\*2024年1月末時点で年会費が未納の方には「2023年度会費納入のお願い」を送付してありま

すが、同2月末時点で年会費が未納の場合は、退会扱いの処理をさせていただいております。会員を継続される場合はご連絡ください。

### ◆メールアドレスご確認のお願い

本学会ではニューズレターはPDF化して会員の皆様宛に一斉メール配信をしております。

もし届いていない場合は、お手数ですが、下記フォームにて、メールアドレスを登録・更新くださいますようお願いいたします。

<https://forms.gle/deRoVkjPDa9iMKkr6>

